

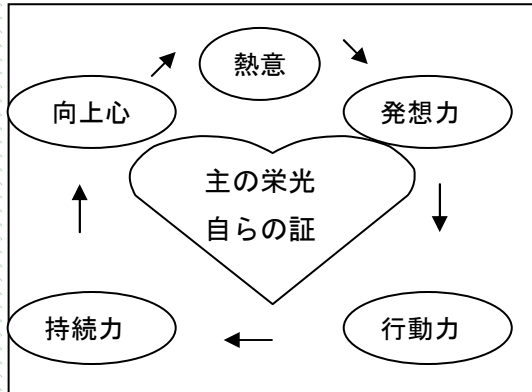
『もっともっと!!』

～こだわり抜く～

Ⅱ列王記 4:1～7,

Iコリント 12:22～31

この世の中でうまく成功している人は全てにおいて「もっと!」という向上心がある。これを聖書では「飢え渴く」と言います。私達は成功している人や自分より優れている人を見て「うらやましい」「ねたましい」という感情を抱きます。だいたいの場合、そのような感情を持つだけでそれから先、どうすれば自分もその水準に達する事ができるのかなど、前向きな事は考えないでうらやんでいる事が多いのです。うらやむばかりではなく、どのようにすれば、その水準に達する事ができるのか。その為に何ができるのか。それらを考えていく事が大切なのではないのでしょうか。神の愛を知っている私達は図のように「主の栄光を自ら証したい」という気持ちが心の中心にあると思います。そしてその思いを形にしていく為にそれぞれの能力が神から与えられています。今の自分と図を見比べた時に自分にはどの部分が欠けているのでしょうか。まずは熱意（やる気）がなければ何も始められません。神の愛を知っている私達にとってはイエス様の十字架が心があれば熱意は持てると思います。肝心なのはその後です。熱意はある。ではその後のどこの部分で自分はいつも弱いのでしょうか。自分の弱い部分を知り、そこを克服していくにはどうしたら良いか、自分には何ができるのか。それを対人に求めるのではなく自分が神様に向き合っていかなければなりません。「うらやましい」と思うだけではなく、自らでもっともっと得る為に



①**もっと飢え渴く**。ここでの戦いは「あきらめ」です。イエス様が十字架に架かれた時、「私は渴く」と言われました。弟子達に裏切られ、助けてきた人たちに裏切られ、心の痛み、体の痛みを耐えたイエス様が十字架の上で最初にした事は「神に飢え渴く」事でした。イエス様は「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」(マタイ 16:24)と言われています。私達も渴く事から始めましょう。「もっとよくなりたい」「もっと一人の人を良くしたい」と飢え渴きましょう。「私にはこれだけあればいい」このように思っていないですか。それはあきらめにつながります。

②**もっと他の器官から学ぶ**。「うらやましい」と思っているだけの人は思うだけで終わってしまいます。そのような人はだいたい何の対策も講じてはいません。どのようにその人は成功しているのか、うらやむばかりではなく、どうしたら得られるのか学んで下さい。「学ぶ」ことは「まねる」事ではありません。「学ぶ」という事はどのようにするのか自分で考えるという事です。

③**もっとこだわり、こだわりを広める**。くだらない自分勝手なこだわりではなく大切なこだわりを自分で見つけていきましょう。こだわりを大切に生活していると、自然とそのこだわりに関心する人が寄ってきます。中心にイエス様の愛があるこだわりなら、そのこだわりを広める結果、多くの人に神の愛を流す事ができるのです。自分の得ているものに感謝したうえで求めていってください。(エペソ 1:18～19) あなたにはもっとすばらしい物が用意されています。そのことを知ってください。その上で(ヤコブ 4:2～3) 自分の動機のためではなく、神の栄光の為に求めて下さい。必ずすばらしいものが与えられます。「もっともっと」と求めていきましょう。